

中部大学 自己点検・評価だより Self Evaluation Newsletter



第2号

日頃より自己点検・評価にご協力いただきありがとうございます。

現行形式での自己点検・評価は、計2サイクル・5年間の経験を積み重ね、現在、新サイクルに向けて見直しを進めています。その中で、今回の点検者の姿勢には、見逃せない変化がありました。昨年11月に開催された外部有識者による「中部大学アドバイザリー会議」では、（自己点検・評価に多く見られた）「特になし」の記述こそ問題だ、と指摘されましたが、今年の自己点検では「特になし」「空欄」がほぼ姿を消し、良い点・改善すべき点をあぶり出そうとする工夫が多く見られました。

今回の「自己点検・評価だより」では、2サイクル目の最終年度の意欲的な自己点検・評価の中から、皆さんとぜひ共有したい Good Practice をご紹介します！

大学評価推進部 加々美 康彦

2022年度 自己点検・評価の結果における Good Practice (ピアレビュー報告書より)

工学部 基準4 教育課程・学習成果

教育理念及び教育目標と卒業要件・教育課程の関連性等を学部独自の「工学部履修ガイドブック」に明記し、在学生に開示している。

point!



学生が、学期ごとの到達目標、授業科目の位置づけや意義を十分に理解した上で履修登録を行うための資料として活用されています。

工学部 基準7 学生支援

学生の要望に応じた各種ワークショップ、同好会活動などのサポートが実施されているのみならず、オープンキャンパスでの広報活動にもつなげている。

point!



学生の「モノづくり」への情熱に、先生方が「専門性」に基づく助言・支援で応える、意欲的な取り組みです。

2022年度 自己点検・評価の結果はこちら→



工学部・工学研究科 基準11 管理運営

2020年度よりZoomにて工学部教授会を実施し、会議前にデジタル化した資料を全構成員に配信し、ペーパーレス化と新型コロナウイルス感染症対策を行っている。各定例会議は年度始めに年間開催日程を教授会で周知し、工学部教職員専用ホームページでも公開している。

point!



会議の開催日程と資料をWeb上に展開することで、場所や時間を問わずスケジュール確認や資料閲覧を可能とし、利便性の向上につなげています。

現代教育学部 基準1 理念・目的

教育の理念を常に見返すために、毎回の教授会配付資料に学部の「教育の理念」を記載する方法で周知している。理念の再認識の機会を与え、理念に基づいた議論ができるようになるなどの効果もあり、明確な特色となっている。

point!



「教育の理念」は教授会資料の表紙（議事一覧）に記載されているため、出席者は必ず目にするようになります。

『IR データを活用した

要支援学生への早期対応と要因の分析』

「全学的課題」とは、その年度の自己点検・評価シート、ピアレビュー報告書に記載された事柄から抽出された、全学的に取り組むべき課題です。

今年度は退学者抑制を目的とした、成績不審者・退学希望者・休学者・障がいのある学生等への支援に焦点を当てた IR データの活用法について全学的に考えていきます。

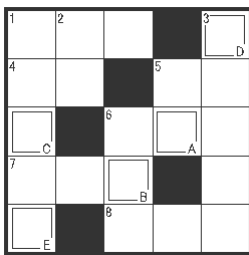
まずは現状把握のため、各学科へ現況の調査を行います。

その結果に基づき、各学科の取り組みや他大学の活用例を紹介すると共に、IR データシステムの環境整備、新たな活用方法の模索等の対応を行っていきます。

「学生を誰ひとり取り残さない大学」を目指しましょう。



★大学評価クロスワードパズル★



ジ	コ	キ	キ
ウ	キ	ヨ	
ヒ	ヨ	ウ	カ
シ	ヨ	ウ	ガイ
ツ	ウ	ク	ク

創刊号の答えは「キョウイク」でした。

答え

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

☆☆☆ タテのカギ ☆☆☆

[1]	アンケート等の学生の回答を即時に集計・表示できるシステム。中部大学ではCumocを運用しています。
[2]	中部大学の正門から9号館に向けて続く〇〇道。
[3]	自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、周囲の人と意見交換・協働したりしながら進めていく学習活動。「〇〇〇〇学習」。
[5]	春日井市〇〇本町1200。
[6]	大学自身が学外者の選定及び項目の設定を行って実施する評価。「〇〇〇〇評価」。

☆☆☆ ヨコのカギ ☆☆☆

[1]	専門教育ならびに教養教育の科目を4年間通じて履修できるカリキュラムのこと。「〇〇〇型カリキュラム」。
[4]	自然界のものについて学ぶ教科。
[5]	千の十倍。百の百倍。
[6]	セメスター制やクォーター制などがあります。
[7]	PBL。「〇〇〇〇解決型学習」。
[8]	春日井キャンパスの周辺には桃や〇〇〇の直売店がありません。

2023年度 自己点検・評価に向け意見交換会を実施

2018年度に始まった現行の自己点検・評価は、2022年度をもって2サイクル目を終えました。

試行のため2年で1サイクルとした2018-19年度、本来の3年1サイクルで実施した2020-22年度の5年間の実績を踏まえ、大学評価推進部・大学評価事務課では目下、自己点検・評価の見直しを進めています。

負担を減らし、より効率的に改善・向上に繋がる自己点検・評価にするため、教育組織(学部・研究科等)の事務室事務長・課長との意見交換を2022年7月14日に実施しました。

各組織に所属する先生方と全学を繋ぐ要を担う方々から、現状報告と今後の改良に向けた提案をいただく貴重な機会となりました。



各事務室事務長・課長の皆様、貴重なご意見をありがとうございました！



用語の解説



自己点検・評価

「自己点検・評価」と書くと堅苦しい感じがしますが、要するに「己を知る」ということです。実績を振り返り、現状を把握し、ここは頑張ったな、ここはこうしたらどうだろう、と気付くことです。

その気付きが改善・向上に繋がり、その努力や成果を社会に公表*することで、あそこの大学は頑張っている、良いんじゃないか、と支持を得ることに繋がります。

この流れが、自らの質を保証する「内部質保証」になるのです。

難しく考えず、その組織の引継書を作れば良いと、ある自己点検・評価に造詣が深い先生がおっしゃっていました。

次の年度、そして未来へ繋がる大切な足跡として、自己点検・評価に取り組んでみましょう。

*本学ではWebサイトの「情報公表」で自己点検・評価の結果を公表しています。



発行日 2022年 11月11日

発行 大学企画室 大学評価推進部

内線 2381・2382 (大学企画部 大学評価事務課)

E-mail hyoka@office.chubu.ac.jp

第2号

